

<基本情報>

改組年度：令和7年度
 改組内容：既存学部における学科の新設
 設置等組織名：国際文化学部情報社会学科
 入学定員：【R7新設】40名
 所在地：山口県山口市



国際文化学部の再編：地域社会の未来をリデザインし、人々の暮らしのDX推進に貢献できる人材を養成する文理融合型の情報社会学科を新設



地域の課題をデータとデザイン思考で捉え、文理の枠を超えてDXを実践することにより地域課題の解決に貢献する

国公立3大学で実施する地域活性化育成事業(SPARC)による「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム」

- 文理融合のSTEAM教育
- 企業等と連携したDXによる課題解決(PBL)
- 山口大学から6科目を提供(連携開設科目)
データ科学のための数学、統計、AI、DX等
- 本学から山口大学へ4科目を提供(連携開設科目)
地域学、デザイン思考、コミュニティデザイン等
- 3大学共通のLMSやプラットフォームを活用
- 教学IRによる学習成果の可視化
- 高大接続教育、リカレント・リスキリング教育

大学・高専機能強化支援事業(学部再編等による特定成長分野への転換等)に係る支援

- 文学と工学による複合分野の学科を新設
- 県内企業・高校へのニーズ調査に基づく文系DX人材育成
- データサイエンス教育・DXの実践を促進する教育等を行う施設・設備等の充実強化や、教育内容や方法の開発
- 探求学習を進める高校等との接続教育での連携やPBLで得た知見を活かした指導助言の推進
- 最先端の技術革新を体験する機会を創出するためのメタバース教育空間の導入・整備
- 実務家教員によるデータサイエンス、地域ビジネス等に関する専門科目の実施
- 県デジタル政策課やY-base等の自治体や、企業・団体等と連携した実践的な教育現場の開拓
- 海外の大学との連携、社会人へのリカレント・リスキリング教育の実施
- 地域企業との連携強化による受託研究等の推進

言語力+DX	デザイン力+DX	情報処理技術者レベル8
国際文化学科	文化創造学科	情報社会学科 新設
人文学的素養 (世界と地域)	人文学的素養 (地域と世界)	人文学的素養 (地域と世界)
語学的要素 (多言語コミュニケーション)	デザインの要素 (モノ、コト、価値)	データとデジタル の活用
文化的要素 (地域の国際化・ 多文化共生の推進)	文化的要素 (地域文化の活性化)	文化的要素・工学的要素 (新たな社会・暮らしの イノベーションの創出)
3学科で展開する情報関連科目		
学部共通：SPARC教育プログラム(文系DX人材認定) ウェルビーイング(人々の幸福)の視点からDX推進ができる地域活性化人材		
基盤教育・数理データサイエンス リテラシーレベル認定		

大学全体・国際文化学部のアセスメントプラン
 +
 3大学共通のSPARC教育プログラム・アセスメントプラン

大学の内部質保証体制 成長分野に関する内部・外部評価

養成する人材像

プログラム改善 検証

プログラム実施

人間中心の視点からデジタル技術の活用について考え、さまざまな関係者の話を傾聴・仲介し、対話を通して地域課題や社会課題の解決に対するイノベーションを起こすことのできる人材が育成できているか、その教育効果と教育成果の検証

学部共通の教育内容実践例【数学】

- 「データサイエンス教育・DXの実践」のための基礎を養成
- 入門科目→基礎科目のステップアップ型で実施

入門科目の特徴：

- 数学アレルギーの緩和が目的
- 身近なもの、親しみやすいものが題材
- 「数学がどのように使えるか」を学ぶ(=実践的)
- 例：ドーナツの販売計画を立てる、理想の年齢で運命の人と出会う確率を計算する、など ※高校で習った数学を使って求める

基礎科目の特徴：

- 基礎知識の習得が目的
- データサイエンスに必要な数学を学ぶ(=理論的)
例：関数、集合、順列、組み合わせ、ベクトル、行列など

入門科目： データ科学のための数学入門

基礎科目： データ科学のための基礎数学

PBLによる実践力の修得

地域社会と連携しながら学びを展開し成果を発信

県内企業や団体等との連携

- 事例1:やまぐちのイメージを香りで表現！(湯田温泉こんこんパークと連携)
- アロマのワークショップ開催
- 情報社会学科1年生によるオリジナルアロマが完成
- こんこんパークで展示

海外の団体等との連携

- 事例2:国際マーケティングについてー(いち)から考える～インドネシアのコーヒーに着目して～
- 事例3:タイ・モン族の村における持続可能な農業と環境調査
- 事例4:山口と台湾の過去・現在・未来



情報社会と人文知を統合するカリキュラム

実空間と仮想空間の統合

- 取り組み事例:キャンパスのVR化
- 空間のスナップショット(景観の保全・災害診断・観光資源)
- パリアフリー診断(高齢者の居住空間の危険度を調査)
- リアルなクラスの再現(附属高校との共同ゼミ)
- 聖なる空間の構築(祈りの場所を提供)

パートナーロボットの社会実装

- 人々と「かわわり」、人々を「つなげる」ため
- どのような装置を「つくる」かを体験する

テレプレゼンスの検証

- さまざまなオンラインツールを体験
- どのような装置が何を生み出すかを体験
- いかなる場面で何を伝えれば良いかを考察
- もっともふさわしいかわわり方を検証

カリキュラムに合わせた学びの場の創出

情報社会 create social well-being

つなげる つくる かかわる

展開科目

つなげる領域の教室： 人文学の基礎を学ぶ

- 人々のつながりを理解
- 人々をつなげる知識の修得

特徴： 座学での学びに特化

つくる領域の教室： 情報技術の基礎を学ぶ

- プログラミングやAI構築を演習
- 小規模なネットワークを構築
- 人々がつながれる基盤をつくる

特徴： 床に座れるようにし、工作や手作業に特化

かかわる領域の教室： 人がかかわるデザイン思考を学ぶ

- 人々とかかわる方法を修得し
- 人々のつながりをつくる

特徴： グループワークやワークショップに特化

< 基本情報 >

改組予定年度 : 令和7年度
 改組内容 : **学部の新設**
 設置等組織名 : **理工学部**
 入学定員 : 【R7新設】200名
 所在地 : 大阪府茨木市



< 教育内容 >

各分野の基礎的応用的な科目に加え、**1年生から実験科目**や、データサイエンス・プログラミングなどの**デジタル時代に必要な授業科目を展開**し、特定成長分野や日本の伝統的なものづくり人材の育成にも寄与。また、実務経験のある教員による授業科目も設置し、**実践的な教育を実施**。



< 多様な入学生の確保 >

多様な入学生を受け入れるための入学者選抜の方法を検討。女子学生の確保に向け**女子高校生への積極的なアプローチ活動**を実施。また、地域の初等中等教育段階の学校と連携し、**地域の高等学校への出張授業や高校訪問等**を実施。

< ニーズ調査・事前協議 >

高校生を対象にした**入口のニーズ調査**、企業・団体を対象にした**出口のニーズ調査**を実施。さらに、**一部の企業・団体とは設置構想に関する事前協議**を実施し、社会ニーズを踏まえた体系的なカリキュラムを構築。



入学者・志願者が多い近畿地方を中心とした高校を対象に実施。
 企業や団体等と設置構想に関する事前協議を実施。カリキュラムに反映。
 理工学部卒業生の就職先と想定される企業等を対象に実施。

< 特徴・コンセプト >

理工学部を新設し、文理を問わない“文理を超えた学び”の実現を目指す。理工学部では、各分野の専門領域に係る教育研究から**基本原理の理解と基礎的な技術力、問題解決能力をもって社会に貢献する人材**を育成。



< 教育の質保証 >

教育の質保証として、**一定水準に満たない学生への学習指導**や、基礎学力の定着・正課科目の補習などの**リメディアル教育を実施**予定。また、他大学との**単位互換制度を活用した教育連携**、企業への**インターンシップ**等により**教育の高度化**を図る。さらに、教育研究環境の充実に向け、**理工学部専用棟、設備・機器の整備**を実施。



< 外部資金の獲得 >

経済団体との関係性および学内の産学連携体制を強化し、**企業との共同研究を促進**。加えて、**ステークホルダーから寄附を募る**ことで、外部資金の獲得を目指す。

2024年度～2025年度までの取組



多様な入学生の確保

入学者選抜における科目の見直しや女子学生の確保の実施。また、これまで文系学部だけの大学であったため、工業高校への訪問を通じた志願者数増に寄与する取組も実施。加えて、理工学部教員による高校での出張授業も実施。

< 具体的な取組 >

- ✓ 特設サイトの開設
- ✓ 女子高への訪問の実施
- ✓ 工業高校への訪問の実施
- ✓ 特別入試の実施
- ✓ 出張授業



研究支援体制の強化

総合大学として研究活動を組織的に推進する役割を担う研究センターを2024年に設置。新たな研究支援制度の運用を通じて、研究成果の創出と社会実装を加速することにより、**グラント獲得と本学のレピュテーション向上**を促し、社会貢献を図る。合わせて、外部資金の獲得にも寄与。

< 具体的な取組 >

- ✓ 共創的研究推進センターの設置
- ✓ 分野をまたいだ研究助成制度の新設 (共創的研究奨励費制度)
- ✓ 公募制研究室制度の新設
- ✓ 論文掲載料助成制度の新設



教育の質保証

入学前教育やリメディアル教育を実施。理工学部独自の内容を新規で作成し、入学前からLMSを利用することで大学での学びにスムーズに適應することを目指す。また、学びの環境を高度化するために、理工学部の専用棟への改修工事や、教育・研究に使用する実験機器などの整備を実施。

< 具体的な取組 >

- ✓ 入学前教育の実施
- ✓ リメディアル教育の実施
- ✓ 理工学部専用棟の整備
- ✓ 実験設備・機器の整備



基本情報

改組予定年度	令和8年度	設置等組織名	総合情報学部データサイエンス学科 同学部デジタルイノベーション学科	データサイエンス学科 入学定員	60
所在地	東京都世田谷区	改組内容	学部の新設	デジタルイノベーション学科 入学定員	50

<社会や地域のニーズ・課題>

- ✓ 理工系分野における女性活躍・社会進出の実現が必要である
- ✓ データを分析するデータサイエンティストに加え、デジタル技術を活用し社会を変革するデジタルイノベーション人材が求められている

<多様な入学者の確保>

- ✓ **社会人**：オンラインによる授業履修、リスクリング/アップスキリングプログラムの提供
- ✓ **留学生**：入学金免除や奨学金制度を通じた経済的支援、日本語教育に特化した日本語教育センターの開設
- ✓ **高大連携**：体験授業・出張授業の実施、本学附属中学校・高等学校との連携

総合情報学部

- ・数理能力に基づく思考や発想ができ、データやデジタルに関する知識やスキルを応用して課題を解決し、創造性を発揮してアイデアを社会実装できる女性を育成する理学学部
- ・先駆的かつ実用的な校舎の建設を計画し、VR Learning Commonsを設置

データサイエンス学科

<育成する人材像>

- ・数理能力に基づく思考や発想ができ、DS能力による〈分析〉や〈予測〉を駆使して課題を解決し、創造性を発揮できる女性

<教育内容>

- ・数学・統計学・DS・コンピュータサイエンスを基盤とし、活用分野として心理・健康・人材開発及びマーケティングの講義と演習科目を開設
- ・専門教育科目の中に、実践的なデータを扱うケース・スタディ科目を配置

デジタルイノベーション学科

<育成する人材像>

- ・ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができる知識と能力を身に付け、社会やビジネスにおける課題の解決手段を実装できる女性

<教育内容>

- ・基礎的な数学、ICTを基盤とし、コンピューティングやデジタル社会に関する科目、実践分野として心理・健康・ビジネス・環境・社会等の領域を学ぶための講義と演習科目を開設
- ・専門教育科目の中に、社会課題の解決手段を実装する力を身に付ける科目を配置

学外との連携

- ・DX推進企業等と連携したインターンシップや産学官と連携したPBL型の授業を開講
- ・工学部・理工学部を有する海外協定校との教育研究面での交流を協議
- ・本学附属中学校・高等学校と連携し、一貫した女性デジタル人材の育成

昭和女子大学（令和6年度～7年度までの取組）

①新学部の構想策定～認可申請

2024年3月～2026年3月認可申請

【データサイエンス学科】

カリキュラムポリシー抜粋
 ・1年次の専門教育科目では、データサイエンス学科での4年間の学びの指針を示し、専門知識を学ぶための基礎を涵養するため基礎科目群を配置。
 1・2年次にはデータサイエンティストとして必要な基礎的能力を身に付けるため、線形代数と解析を主とする数学、基礎統計から多変量解析までの統計学、記述、診断、予測、処方アナリティクスまでのデータサイエンスの講義・演習科目を配置。
 ・2・3年次の専門教育科目では、応用分野となるビジネス・心理・健康の3領域の専門知識を学ぶドメイン科目群を配置。同領域の実践的なデータを扱い、統計学的な分析と予測を実行する演習・プロジェクト科目を配置。

【デジタルイノベーション学科】

カリキュラムポリシー抜粋
 ・1年次の専門教育科目では、デジタルイノベーション学科での4年間の学びの指針を示し、専門知識を学ぶための基礎を涵養するため基礎科目群を配置。1・2年次には組織内での情報システム構築に必要な基礎的能力を身に付けるため、数学と統計学の概要をつかむ科目を配置すると同時に、コンピュータサイエンスの専門知識を身に付ける講義・演習科目を配置。
 ・2・3年次の専門教育科目では、応用分野となるビジネス・心理・健康の3領域の専門知識を学ぶドメイン科目群を配置し、コンピュータサイエンスの社会実装を実践する演習・プロジェクト科目を配置。

特徴

文理融合カリキュラムとし、数学、統計学、DS、コンピュータサイエンスを基盤とし、心理・健康・ビジネスに関わる人材開発及びマーケティング等を専門領域としたケース・スタディを行う科目を開設、実践的なデータを扱う教育を実施する。学部基幹科目をはじめとした講義・演習科目において、実務家教員による指導を受ける機会を設けている。
 先駆的かつ実用的な校舎の建設を計画し、VR Learning Commonsを設置する。また、海外協定荒野地域の初等中等教育機関、大学、企業、自治体等と連携した教育を行う。

④新学部を母体とする研究所の設立

2025年10月 情報総合学部新設に伴い、国内外の産学官連携の主体となり、専門性の発信と教育の社会実装を担う機能を備えた「情報科学研究所」を設置。

⑤DX推進企業との連携

三井住友海上火災保険へのリカレント教育プログラム提供

2025年6月～9月 「体験価値」に着目し、顧客や同僚・上司・部下のニーズを的確にとらえ、担当業務のイノベーションや自身のリーダーシップスキルの向上を実現することを目指し、グループワークやディスカッションを含む全9回で実施。

⑥PR広報

総合情報学部ホームページ開設、リーフレット、パンフレット作成
 オープンキャンパス開催（6月、7月、8月、9月、10月、11月）
 キャリアイメージ動画作成（7月、11月）

2026年7月作成動画

【総合情報学部×RIZAP TECHNOLOGIES】



2026年11月作成動画

【総合情報学部×野村不動産】



SNS配信

ロゴ・キャラクターの作成

DIのキャラクター

1(アイ)

由来は「i=虚数」から

DSのキャラクター

S(スー)

由来は「数」から

⑦総合情報学部開設記念シンポジウム

2026年3月開催予定

外部有識者の基調講演と学部教員の研究発表を中心に実施を計画中



③新校舎の改装

2025年10月～2026年3月



10号館外観イメージ（5階建て）



提供:永南祐子建築設計



デジタルスタジオリモーションイメージ



ラーニングコンモンズイメージ





改組予定年度：令和8年度
 改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）※
 所在地：京都府京都市

設置等組織名：デジタルメディア学部デジタルメディア学科（入学定員100人）
 工学部ロボティクス学科（入学定員80人）
 デジタルメディア学部デジタルメディア学科通信教育課程※（入学定員180人編入入学定員180人）
※デジタルメディア学部デジタルメディア学科通信教育課程のみ、当該大学が授与する学位の分野の変更を伴います。

新学科設置を起点とした全学的改革により、社会が求める教育を広く届けることをめざす

社会ニーズ

【人材・受験需要】

- ◆ 社会全体での情報系人材の量的不足(2030年に16万～79万人不足)
- ◆ コンテンツ市場拡大、メディア芸術活用等に向けたメディア人材需要高まり
- ◆ 人手不足等を背景とした業務自動化ニーズや世界的なロボット市場の拡大に向けた人材需要高まり
- ◆ 情報系・機械系学部学科への受験ニーズ

ソフトウェア・情報サービス関連企業や機械・部品メーカー、地元企業等と求める能力・カリキュラムについて協議

新たな学科設置

デジタルメディア学科 (通信教育課程併設)

社会実践力・AI等の情報工学の基礎的知識・技術および、画像処理技術やデザイン技術を身につけ、メディアセンスを兼ね備えたエンジニアや、情報工学の体系的知識・技術を持ったクリエイターとして活躍する人材を養成

【学問領域】

- メディア技術系領域
- メディアデザイン系領域

社会実践系領域（デザイン思考やPMなど）／AI・DS・CSの基礎・基盤領域／クロスオーバー領域（社会科学等他分野の知見）

【教員体制】

- 実務経験者を含む
- メディア技術系・メディアデザイン系教員

【施設・設備】

両学科教育研究に必要な設備を備えた新棟（スタジオ・機械工作室等）

【教員体制】

- 実務経験者を含む
- 機械工系・電気電子系・計測制御系・情報系教員

ロボティクス学科

社会実践力および機械工学、電気電子工学、計測・制御工学、情報工学などの複合的知識・技術を身につけ、機械や電機関連産業等において設計・技術者、生産・工程管理者、SEなどとして活躍する人材を養成

【学問領域】

- 機械工領域
- 電気電子領域
- 計測制御領域
- 情報領域

全学を巻き込む発展的な展開

学生受入（多様な学生の受入）

- 留学生・地方学生・社会人の受入促進
日本の強みであるゲーム等の教学充実&広報、通信教育課程設置、初年次教育強化（通信教育メディア授業コンテンツも活用）等により、上記学生の受入を促進
- 理系女子学生の受入れ促進
併設校を含む女子高校生への本学女性教員による説明会をはじめ、女子向け広報を強化する
- 入学者選抜の設計
文系理系、国籍、年齢等の多様な学生受入に向けた入学者選抜制度設計および、入学後の支援体制を強化

教学

- 通信教育授業コンテンツの発展的活用
メディア授業コンテンツを通学課程へ展開し、柔軟な履修スケジュールの実現による留学等を含めた課外活動の推進
- 海外大との連携による教育の展開
メディア授業等を活用した海外大との授業コンテンツの相互提供や、海外大で専門分野を学ぶ留学プログラムの設定
- 企業等との連携による教育の展開
企業の実務家を招いた講義や、企業等から提示された課題に対する施策立案・提案を行うPBLを展開
- 全学的な文理横断教育の推進
新学科教学リソースを全学に展開し、文理横断教育の推進

研究推進

- 全学的な情報研究推進
本学の情報領域が大幅に拡大するなかで、情報関連研究を推進する機能を持つ「情報学教育研究センター」を設置。自治体や企業等とも連携し、本学の情報関連研究をさらに推進し、科研費等の外部資金も増加させる。また、本センターでは、教育研究リソースを展開した社会人教育（リカレント等）も展開する。

■新学科設置準備



デジタルメディア学部 デジタルメディア学科

コンテンツ大国は新時代へ
デジタル社会をリードする。



工学部 ロボティクス学科

新時代の救世主はAIとロボット
ロボティクス技術を駆使して未来を実現。

ABOUT

日本のゲームやアニメ、音楽といったメディアコンテンツは、世界中で絶大な人気を誇っています。情報技術を基盤に、メディアコンテンツの制作技術やCG、画像・音声処理、AIなどのメディア技術を修得。次世代のコンテンツやシステムを創造し、多くの人を熱狂させるクリエイターやITエンジニアをめざします。

FEATURES

- 01_情報技術を基盤にゲームやアニメ、音楽などのコンテンツ制作やメディア技術を学ぶ多彩な4つのモデルコース
- 02_情報系の様々な資格取得に対応
- 03_京都橘のクロスオーバー学習



ABOUT

世界有数の産業ロボット生産国である日本。ロボティクス学科では機械工学や情報工学、電気電子工学、計測・制御工学に加え、先端AI技術にも精通し、これからの機械・ロボット産業や情報産業で活躍するスペシャリストを養成します。

FEATURES

- 01_先端AI技術から機械系、情報系まで。社会で活躍できる思考と技術をイチから体系的に学ぶ
- 02_実験や企業連携などリアルで実践的な学び
- 03_京都橘のクロスオーバー学習
- 04_先端的なロボティクス



■多様性を支える取り組み例

入学選抜における科目の見直し

- ・多様な学生の受入れをめざして、入学者選抜の方向性などを確認

グローバル教育の拡充

- ・学部学科コンセプトや国際連携方針の確認
- ・関連科目等を含むカリキュラムの検討

社会人学生の受入れ強化に向けた取り組み

- ・「情報学教育研究センター」の設置
- ・京都橘大学情報学リスキング講座を展開

女子学生の確保に向けた取り組み

- ・女子学生を対象とした入試広報施策の検討
- ・女子学生を意識したHPやパンフレットの作成、広報活動の展開

地域の初等・中等教育段階との連携

- ・地域の初等・中等教育機関との連携に向けた具体的な準備

企業や自治体と連携した科目(PBL等)の整備・実施

- ・学部学科コンセプトや企業連携方針および関連科目等を含むカリキュラムの検討



<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：情報工学部情報工学科
入学定員：【R6新設】100名
所在地：石川県金沢市

本学初の純粋な理工系教育課程を確立
「情報工学部 情報工学科」(学問分野：工学関係)*

社会背景
日本におけるDXを推進できる
理工系人材の不足
特に、北陸のように中規模製造業が多い地域では、
理工系人材不足は顕著であり大きな需要がある。

金沢学院大学
理工系を含む私立総合大学
金沢学院大学
文系私立総合大学
教育理念「創造」および教育指針「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」「社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む」に基づき、
理工系人材、特にデジタル分野における人材の育成に取り組む。
(*仮称・設置認可申請中)

<特徴・コンセプト>

DXを推進できる理工系の人材不足は深刻な問題である。特に、北陸のように中規模製造業が多い地域では顕著であり、デジタル人材に大きな需要がある。この社会背景のもと、これまで文系私立総合大学であった本学が、学問分野を工学関係とする情報工学部(仮称・認可申請中)を新たに設置し、理工系を含む私立総合大学として、北陸地域におけるデジタル人材養成に取り組む。入試制度においては女子募集枠を設け、ロールモデルとなる女性教員を組織に加えるなど理工系女性人材育成にも取り組む。また、教育研究環境を本学部専用の新校舎へ移し、地域に開かれた新しい理系人材教育拠点を創出する計画である。

<教育内容>

Table with 4 columns: 1年次, 2年次, 3年次, 4年次. Content describes the curriculum progression from basic information science to practical application and research.

<申請要件等>

Table with 7 columns: 学生確保の見通し, 教育の質保証, 教育体制と教育研究環境整備, 実務経験のある教員等による授業, 社会ニーズとの関連性, 寄附金、研究費等外部資金獲得計画, 自大学以外の機関との連携取組.

金沢学院大学 情報工学部における取組
北信越DXハイスクール選定校への支援

現在、DXハイスクールに選定された高校に対して支援を実施(あるいは呼びかけ)している。

従来、本学を主な進学先としてきた高校には理系生徒の割合が少なく、また理系であったとしても化学や生物の学習に留まっている者が多い。北信越地区全体の理系人材を育成するには、この構造そのものを変える必要があると考えたからである。

支援実施にあたっては、理工系人材の不足を訴えその分野への就職実現性を強調するだけでなく、理工系の学びそのものの魅力を伝えるよう心掛けている。それには現在、急速に進歩を遂げている生成AIに代表される人工知能技術で実現可能となっている様々なことから、そしてこれから実現されるであろう未来の可能性を高校生にも分かりやすく伝えた上で、その学習に必要な数学や物理の基礎知識を紹介している。この取り組みは文理選択をする高校1年生、理系選択を継続する高校2年生に対して有効になると考えている。北信越地区では他地域に比べ、情報の学びに対する高校生の興味関心がそれほど強くないことを実感しており、今後この取り組みが特に重要となると考えている。

【情報工学部】DX加速化推進事業を行いました!

本学情報工学部は、DX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。本学がDX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。

「交流シミュレーション」



交流シミュレーションは、DX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。

【情報工学部】DX特別講義を実施しました

DX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。特別講義では、DX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。

「教育分析」



教育分析は、DX加速化推進事業の一環として、北信越地区の理系高校でDXハイスクールを推進し、理系人材の育成に取り組んでいます。

「AIエンジニアリング入門」



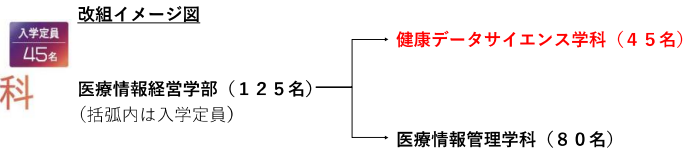
「数理解算化」





〔基本情報〕
改組予定年度：令和8年度
改組内容：既存学部における学科の新設
設置等組織名：医療情報経営学部
健康データサイエンス学科
入学定員：45名
所在地：新潟県新潟市北区島見町1398番地

〔2026年4月開設〕
医療情報経営学部
健康データサイエンス学科
新潟医療福祉大学



教育理念・目的、養成する人材像

教育理念

多様化、複雑化する社会において、データサイエンスを拠り所に新たな価値を見出し、豊かな人間性と倫理観に基づいて、社会の発展につなげ、人類のQOL向上に貢献すること。

教育目的

健康データサイエンス分野の教育・研究を通して、人類の持続的発展に寄与する幅広い教養とデータサイエンス・コンピュータサイエンスに関する専門的な知識や技能を修得し、医療・福祉・スポーツ分野におけるデータサイエンスの実践力を養うことによって、ビッグデータから新たな知見や価値を見出すことを可能とし、人類の幸福と人々のQOL向上に貢献すること。

養成する人材像

- ・データサイエンスおよび情報に関する知識と技術を修得し、グローバル化、情報化が急速に進む社会の中で、データサイエンス・情報技術の進歩に関心をもち続け、自らを高めるため、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。
- ・日頃より人間と社会の諸問題に関心を寄せ、医療・福祉・スポーツ等の知識を活用しつつ、データサイエンスの専門的知識に根ざした思考と判断に基づき、他者と横断的・融合的な連携により問題解決に取り組むことができる。
- ・豊かな人間性と倫理観に基づき対象者の多様性、尊厳を尊重し、QOL向上のため適切に行動できる。

教育の特色

データサイエンティストのベーススキルである「データサイエンス力」「データエンジニアリング力」を身につける

データサイエンス力

統計学、情報処理、人工知能等について理解し、これらの知識を基に各種課題に関連したデータを分析して、問題解決につなげる力

データエンジニアリング力

データサイエンスの利活用のため、データの収集・加工・整理、機械学習・AIをはじめとする分析システムの構築・運用を行う力

学びの特色

6学部15学科を有する医療系総合大学の強みを活かし、人々の健康を支える様々なデータの分析・活用スキルを身につける

福祉	医療	スポーツ
蓄積されたヘルスデータ等の利活用により、対象者への最適な支援、QOL向上のためのケアプランの提案、「健康」のためのeスポーツ活用方法を科学的に学べます。	医療分野のビッグデータを利活用するためのデータ分析スキルを修得し、医療・健康分野の課題解決に向けて貢献できる実践的なスキルを身につけます。	本学の強化指定クラブやプロスポーツチームと連携し、実際のスポーツ現場における勝敗分析や戦略支援、アスリートのケア・サポートなど応用的なデータ分析スキルを身につけます。

活躍が期待されるフィールド

「データサイエンスの知識・技術」×「保健・医療・福祉・スポーツの幅広い学び」によって、あらゆるフィールドで人々の「健康」を支えるQOLサポーターを育成

- 医療
- 福祉
- スポーツ
- 美容
- 食品
- IT・情報通信
- 金融・保健
- 教育
- 官公庁

令和7年度の健康データサイエンス学科の主な取組

1. 多様な入学者の確保に向けた取組

① ランディングページの開設

ランディングページを開設し、学科の特色やカリキュラムなど教育内容を紹介している。

新潟医療福祉大学
医療情報経営学部
健康データサイエンス学科

健康×データで
想像を超えた未来を創り出せ

データから世界を見る データサイエンス
「健康」でも「スポーツ」でもこれから必要!

必要とされる場所はいっぱいある

② オープンキャンパスにおける企業連携

様々な企業とコラボレーションを行い、「AI体験」「スポーツアナリティクス体験」などの参加者体験型のイベントをオープンキャンパス毎に実施。



オープンキャンパスでの体験プログラム、コラボイベントの様子

・参加者アンケート結果

学科について知らないことが多かったが、実際に体験をしたことでとても興味が湧いた。

新潟医療福祉大学ならではのデータサイエンスの学びの特徴を知ることができた。

③ 入学選抜試験に「外国人留学生選抜」の区分を導入

・留学生の受け入れ強化。出願及び入学予定者あり。

2. 企業や自治体との連携

① 企業・自治体と連携したPBL型「インターンシップ」の実施

・3年次実施予定の「インターンシップ実習」において、多種多様な業種の企業・病院・施設・プロスポーツクラブ等合計41社と実習受入れの承諾を締結。

② 開設に当たって企業・業界からの期待の声

株式会社アルビレックス新潟



アルビレックス新潟では、選手の走行距離や心拍数などの計測、映像分析による戦術改善、ファンデータをを用いた企画づくりなど、全領域でデータ活用されています。今後はAIによる怪我の予測や選手発掘など、データサイエンスの重要性がさらに高まります。一方、数字だけに頼らず、現場を理解し課題解決につなげる姿勢や、相手に伝える力も欠かせません。医学・健康の知識を持つデータ人材は大きな価値を発揮でき、スポーツの未来を創る存在として期待されています。

データスタジアム株式会社



データスタジアムにはアナリスト・運用・エンジニアなど多様な職種があり、試合データの収集から分析、コンテンツ制作、プロチームのサポート、連環配信まで幅広くデータを使っています。スポーツデータは戦術改善や観戦体験の向上に活用され、AIの進歩で重要性はさらに高まっています。一方で専門人材は不足しており、新しい発想で課題に挑む力が求められます。皆さんの柔軟なアイデアが競技力の向上やスポーツ観戦の新しい形につながる可能性があります。

AMG 上尾中央医療グループ



上尾中央医療グループには医事課、総務人事、経理、診療情報管理室、医療情報企画室などデータを扱う部署があり、診療報酬の分析、経営管理、疾病傾向の把握、電子カルテシステムの運用などを担っています。医療DXが進む中、AIによる診断支援や予測医療などデータ活用の可能性は拡大しており、同グループでもAIを用いた原簿分析を推進中です。医療の発展にはデータを読み解く人材が不可欠であり、「医療×データ」で未来の医療をより良くする挑戦を、私たちは全力で歓迎します!

3. 施設・設備関連

① 既設フロアの改修

改修工事 第3厚生棟 (IA棟) 4階部分に学科フロアを新設予定





<基本情報>

改組予定年度：令和8年度 改組内容：学部の新設 設置等組織名：工学部地域連携DX学科（仮称） 入学定員：160名 所在地：大阪府和泉市

※以下は、2023年7月時点の内部になります。

背景

人材ニーズ

- 大阪府下における中小企業の情報技術活用のためにDX推進人材が必要。
- 今後、中小企業も取引先から組織、製品単位でCO2排出量の削減を求められる可能性大。
- 地域企業の人手不足や予算的理由からDX/GX推進人材の自前育成が困難。
- 私大工学部の空白地帯（大阪府南部、奈良、和歌山）において工学教育充実が必要。

地域の求める人材像
産業社会構造の変化に対応し、地域のサステナビリティを表現できる人材

事前協議によるブラッシュアップ

事業実施委員会の設置

- 自治体や地域経済団体、労働局やDX/GX等に専門性を有する企業により構成
- 産業界ニーズの反映と事業の分析/評価

本学の取組/現況

- 本学の役割は、脱炭素先行地域への取り組みなど、地域における脱炭素教育推進役。
- 社会人向けのデジタル・グリーン分野の U 教育事業を展開。
- 世界26の国と地域、64の大学・機関との協定を結ばし、先進事例を持つ大学と連携。
- 2025年、**桃山学院 桃教は桃大に合流します**。桃山学院教育大学との統合により教育学の拡充、初等中等教育連携との連携を強化。

新学部・コンセプトイメージ

地域社会のサステナビリティを高める

地域との連携による実践的な学び
工学部 地域連携DX学科 <仮称>
地域の社会課題解決をテーマとしたPBL

工学の基礎科目群

数学、物理、化学、生物など、工学の実践の前提となる基礎的な知識の習得

データサイエンス科目群

基礎統計学やデータ収集・処理、プログラミングなどDXを進める上で必須とされるスキルの習得

AIの活用・実践科目群

AIの概念的な理解と、ビジネスにおけるその活用方法など実践的な知識・スキルの習得

グリーン関連科目群

ビジネスに持続可能性を取り入れるための、脱炭素等の技術的な側面に係る知識・スキルの習得

自然科学と人文・社会学が融合したカリキュラムによる「総合知」の体得

既設学部の豊富な人文・社会科学系科目を履修可能

ビジネスデザイン学部
ビジネスデザイン学科

社会学部
社会学科/ソーシャルデザイン学科

経済学部
経済学科

経営学部
経営学科

国際教養学部
英語・国際文化学科

法学部
法律学科

持続可能で共創を促す教育研究環境の構築

実践的な学びの発展
STEAM教育促進、PBLの深化等

新棟・イノベーション commons（共創拠点）の新設と実務家教員の充実
実験・実習や社会実装等に適した教育研究施設と人材の整備

寄附金・受託研究費の獲得
地域産業の振興や新産業の創出に資する

事業目標

実践的な学びにより地域のサステナビリティを推進

- 地域と連携した課題解決を題材としたPBL教育を実施し、その成果を地域に還元。
- PBLのテーマにはDX/GXを据え、最終年次には、それまでに学んできた知識・スキルを実践に移す「卒業研究」を正課として実施。
- 地域企業・自治体で実際にDX/GXに取り組むリーダー等に授業や講演などの協力を要請し、学びと社会の繋がりを学生に伝え、地域社会への愛着を醸成。

地域への専門人材の還元

主に以下の就職先を想定し、専門人材を地域社会に還元する。またがキレ目は「JABEE」の認定を得て、出口の質保証を行う計画。

デジタル人材（組織のデジタル化を加速し課題解決を主導）

想定するキャリア：地方自治体、事業会社IT部門、ITベンチャー、ITベンチャー、ITコンサル等

グリーン人材（持続可能な開発とビジネスの両立を推進）

想定するキャリア：地方自治体、事業会社CSR部門、NGO・NPO、国際機関等

桃山学院創来構想「パーパス」の体現

「私たちは、キリスト教精神に基づく教育を通じて、社会課題の解決を目指す高い志と奉仕の心を持った人を育て、持続可能な地域共生社会を実現します。」

特に力を入れて実施した取組・特徴があると考える取組

機械システム工学専攻

いろいろな部品を組み合わせて、かしく動く仕組みをつくる。

産業用ロボットやドローン、家庭用掃除ロボット、スマートフォンなど、複数の機械部品や装置を組み合わせて、一つの装置として動かす技術を学びます。

詳しくはこちら

電気電子システム工学専攻

電気と電子の技術を組み合わせて、システム全体を動かす。

電気を使う機器や半導体などの電子機器を組み合わせて、電気自動車や再生可能エネルギーシステムのような複雑な仕組みを効率よく設計・運用する技術を学びます。

詳しくはこちら

都市デザイン工学専攻

専門技術を組み合わせて、持続可能な都市を計画する。

IoTやビッグデータを活用した交通インフラ計画や防災計画、環境デザインなど、より快適で持続可能な都市空間をつくる技術について学びます。

詳しくはこちら

工学連携

地域の需要が高い工学の専門領域から3つの専攻を設置。

情報・データサイエンス

ツールとしての「情報・データサイエンス」

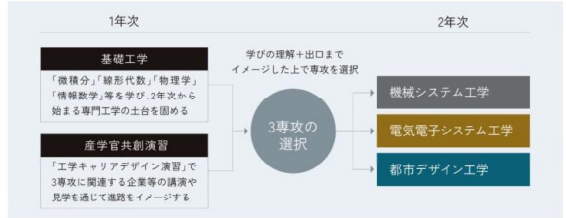
ビジネス関連

「ビジネス」の知識と感覚

POINT 01

レイトスペシャライゼーション

専攻が決まっている人も、そうでない人も、1年次に3専攻の学びが将来の進路にどのように関係しているかを体験したうえで2年次からの専攻を決定。将来の進路に合わせて専門性を高めていきます。



POINT 02

関西私大トップクラスの少人数制クラス

教員1名に対して学生17名という関西圏の私立大工学部の中でも、トップクラスの少人数教育を実践。一人ひとりのベースに応じ、学修支援が受けられます。

17:1 学生 教員
総合大学・工学系工学部の教員一人当たりの学生数（平均値）※本学調べ
学生 29:1 教員

桃大工学部独自の指導体制

高度な専門知識と研究実績を有する専任教員と、豊富な実務経験を有する産学官連携コーディネーター（実務家教員）が連携して指導にあたる。桃大工学部独自の指導体制です。

専任教員 20名 + 産学官連携コーディネーター 16名

POINT 03

企業・行政等と連携し実践力をアップ

給与を得ながら学ぶインターンシップ（コオプ教育プログラム）や連携企業から提供された課題解決や新しい価値の創出に取り組み「工学PBL実践演習」など、ユニークなカリキュラムを計画。

連携企業・行政等
Daigas, JR, NEXCO, 和歌山
2025年4月時点で38社・団体まで拡大しています。

TOPICS 大阪公立大学工学部・大学院工学研究科と連携

大阪公立大学工学部・大学院工学研究科と本学は、2025年3月31日に連携・協力に関する包括協定を締結しました。本学と同じく南大阪に立地する大阪公立大学工学部・大学院工学研究科との連携により、キャリアパスとしての大学院進学に関する講演をはじめとした交流が行われる予定です。



TOPICS 大阪産業技術研究所と連携

本学和泉キャンパスの徒歩圏内にある地方独立行政法人大阪産業技術研究所の和泉センターは総合的な技術支援を通じて企業を支え、地域産業の発展に貢献することを基本理念とする公設試験研究機関で、本学は、教育研究連携に関する協定を締結しています。「工学キャリアデザイン演習」をはじめとした連携を通じて、地元中小企業を支える人材を育成します。



事業計画名 理工学部データサイエンス学科新設に伴う施設新設および改修

基本情報

改組年度	令和7年度	設置等組織名	理工学部データサイエンス学科	入学定員増数(合計数)	70
所在地	東京都板橋区	改組内容	既存学部における学科の新設	入学定員減数(合計数)	70

<社会や地域のニーズ・課題>

- AI戦略2019(令和元年6月11日統合イノベーション戦略推進会議決定)では、「数理・データサイエンス・AI」を理解し活用できる人材が必要とされている
- デジタル社会形成基本法第25条では、日本のデジタル社会の発展を担う専門的な知識・技術を有する創造的な人材の育成が必要とされている

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>

- 数理・統計学と情報工学の理論的基礎の上に、課題解決型学習法を活用し、データから価値のある情報を創造し、それを意思決定に活かす能力を備えた**データサイエンティスト**を育成する
- 総合大学の強みをいかして医療系学部、経済学部と連携した、医療データや経営データに関するデータサイエンスの教育研究を行う
- ビッグデータ解析に必要となる**人工知能の理論**と、**プログラミング**を学ぶことができる

<教育内容・育成する人材像>

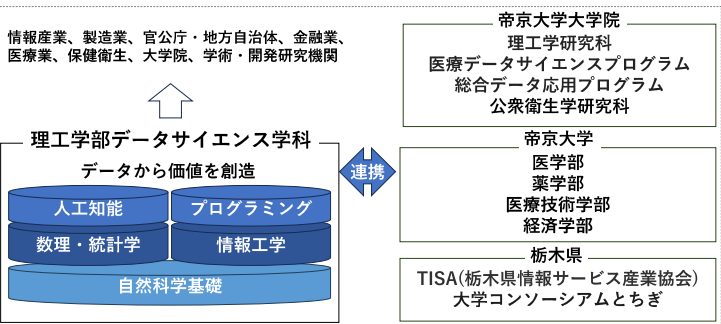
- 演習による**グループワーク**を通して、将来実社会で遭遇する様々な課題に対応するために必要となる知識・技能を有機的に活用し、的確に判断し、課題解決を実践する能力を育成する
- 理工系の基盤である数学、物理学の知識と、活用能力をはぐくむための**数理・統計科目**および**情報工学科目**を設定する
- 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための人工知能の理論を身につけ、その技術を開発する能力を身につけるための**人工知能科目**を設定する
- データを分析するための経営情報科目と医療情報科目を設置し、経営データや医療データ等を用いて実際にデータの解析を行うための**プログラミング科目**を設定する

<連携を通じた教育体制の整備>

- 栃木県サービス情報産業協会(TISA)の会員企業でインターンシップを実施する。学生が学んできた専門知識や技術を実践する学修機会と捉え、**地域における実課題に取り組む**ことにより、専門知識を深めるとともに社会課題の解決方法を学修する
- 「**大学コンソーシアムとちぎ**」と連携し相互単位互換授業を行う

<多様な入学者の確保>

- 一般選抜入試に加え、**学校推薦型選抜入試**、**総合選抜入試**、**大学入学共通テスト利用選抜入試**と多様な選抜方式により、多様な入学者の確保に努める
- 一般選抜入試には、**地域試験場**(札幌、仙台、水戸、高崎、千葉、横浜、新潟、長野、静岡、名古屋、大阪)を設けることで多くの受験機会を提供する
- 留学生に対しては、日本留学試験成績を利用する**留学生特別選抜入試**や、海外現地で入試を行う**海外現地留学生選抜入試**を実施、社会人には**社会人選抜入試**を実施する



■地方での企業実習、地方企業との交流会（栃木県情報サービス産業協会との連携）

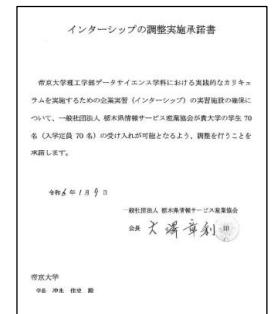
データサイエンス学科の学生が地方に出向き、地方にある優良な企業の魅力に気づく機会を提供し、地方企業が就職先の有力な選択肢になることを学生に認識させる

①地方企業におけるインターンシップ

2年次開講科目「企業実習（インターンシップ）」（必修）にて、地方企業（栃木県情報サービス産業協会(TISA)の会員企業他）へ学生を派遣してインターンシップを実施

②学生とIT企業との交流会

栃木県情報サービス産業協会(TISA)が毎年実施している「学生とIT企業との交流会」に本学科の学生が参加し、地域の企業を知る機会を提供



■実務家教員の採用

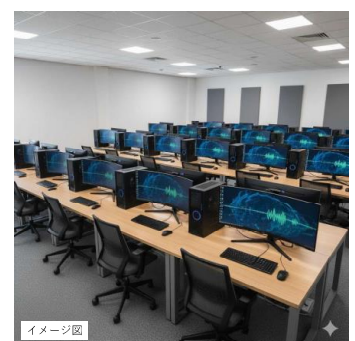
専任教員(10名)の半数以上が企業での経験を持つ**実務家教員**

- 株式会社日立製作所
 - 株式会社東芝
 - パナソニックホールディングス株式会社
 - 日産自動車株式会社
- PBL型の演習「**プロジェクト演習**」、「**実践的機械学習**」、「**医療データ価値創造演習**」、「**ビジネス価値創造演習**」などの授業科目を担当
- 野村総研
- 経済・経営関連の講義「**ビジネス価値創造論**」や「**データアントレプレナー実践論**」などの授業科目を担当

■データサイエンス演習室の整備

- データサイエンス・AI関連の演習に使用するPC環境（GPU-PC **設置台数：55台**）を整備
- 演習時は一人一台のPCを占有し、機械学習、ディープラーニング、ローカルLLM(大規模言語モデル)等の演習に利用

CPU	Intel Core Ultra 9 285K
Memory	128GB
GPU	GeForce RTX 5090
Monitor	34インチゲーミングモニター 曲面ウルトラワイド



演習時以外にも演習室を開放し、学生の利用を促進

イメージ図

事業計画名	事業創造大学院大学情報デザイン学部設置計画	※令和8年度より大学名称を変更（事業創造大学院大学から開志創造大学）	
-------	-----------------------	------------------------------------	--

基本情報					
改組予定年度	令和8年度	設置等組織名	情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）	入学定員増数(合計数)	800名(編入200名)
所在地	新潟県新潟市	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	

<社会や地域のニーズ・課題>

- ・近年の日本における高度デジタル・IT人材の不足は顕著であり、その人材確保は急務
- ・特に地方における高度デジタル・IT人材不足は今後、更なる拡がりが見込まれる（理学・工学分野の情報系学部・学科に限定して定員増を可能にする命令の一部改正の施行による影響も大）
- ・高度デジタル・IT人材に関する需給に関しては、経済産業省による報告書によるとIT人材（IT企業及びユーザー企業情報システム部門に所属する人材）の不足数は、2030年には最大79万人と予測

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>

- ・学問分野を「工学分野の情報学」として、情報学分野に関する教育研究の実践
- ・教育研究上の目的は「情報の基本的な知識と情報技術を活用して、ビジネスや経営における課題解決と価値創造ができる能力を育てる」こと
- ・経済産業省により提言された「生成AI時代のDX推進に必要な人材・スキルの考え方」に準拠したカリキュラム
- ・従来型のIT人材ではなく、AIやビックデータを使いこなし、第4次産業革命に対応した新しいビジネスを担える人材を輩出
- ・オンライン教育の実践、教育工学研究所（仮称）での研究を通じ、新しい学び方を創造

<教育内容・育成する人材像>

【教育目的】 情報学分野に関する基礎的・基本的な知識と課題を探索し解決する能力を習得させ、情報の基本的な知識と情報技術を活用して、情報社会、またはビジネスや経営における課題解決と新しい価値創造ができる能力を育てること

【育成する人材像】 情報の基本的な知識と情報技術を活用して、情報社会、またはビジネスや経営における課題解決と新しい価値創造ができる能力を身につけた情報技術者

- ・データサイエンスや生成AI等の情報技術を活用することによる問題発見・分析を行い、創造的思考による課題解決のためのデザイン（設計・実装・実行・評価）ができ、コミュニケーション力と多角的な視点をもってリーダーシップを発揮できる人材
- ・データサイエンスや生成AI等の情報技術の知識とスキルを企業の経営、マーケティングに応用する知識を兼ね備え、創造的思考による課題解決のためのデザイン（設計・実装・実行・評価）ができ、情報を活用する企業の戦略立案・企画において、コミュニケーション力と多角的な視点をもってリーダーシップを発揮できる人材

<連携を通じた教育体制の整備>

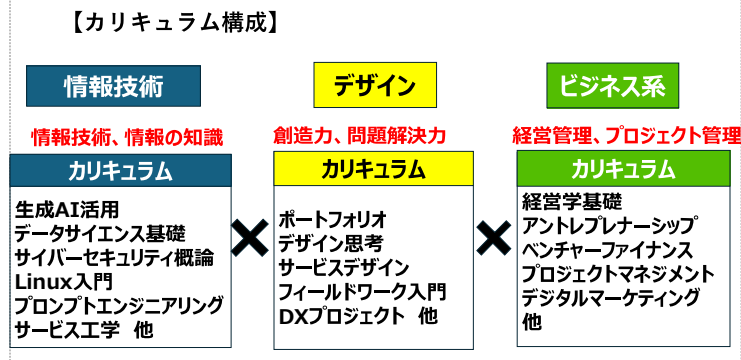
- ・株式会社人工知能研究所より技術者数名を講師として招き、AI活用に関する授業科目の開設の意見交換会を実施予定
- ・株式会社オレンジテクラボと連携し、業務の効率化に向けた情報システムの活用方法や、情報技術を且つした課題解決や新たな価値創造に関するPBL型の授業科目を複数開講
- ・株式会社ドコモビジネスソリューションズと連携し、情報技術に関する共同研究を通じて先進的な学びをカリキュラムへ還元

<多様な入学者の確保>

【社会人の確保（リカレント教育）】 非同期型のオンデマンド教材による場所や時間を考慮しない学びの実践（社会人にとって利便性が高く学びやすい環境を創出）

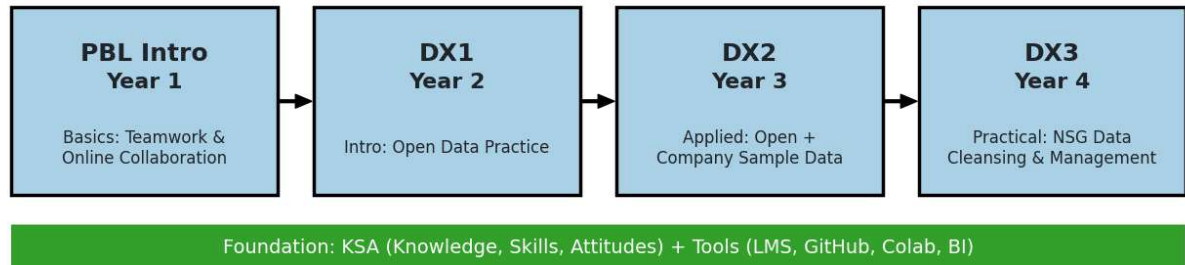
【外国人学生の確保】 完成年度を目途にオンデマンド教材の英語版の教材を開発する計画

【通信制高校生の確保】 新潟市広域通信制高校との連携（合同サークル、特別講義、ワークショップ実施等）



通信教育課程におけるオンデマンド学部としてPBLを実践的に体系化：

本学部では、学部生が1年次から4年次にかけて体系的にステップアップできるよう、**PBL入門+DXプロジェクトⅠ～Ⅲ**をカリキュラムに配置している。これはオンラインでの非同期型PBL（一部同期の授業回あり）を長期的に導入するものであり、学年ごとにデータ活用の範囲と難易度を高めながら、協働スキル・倫理観・課題解決力を段階的に育成する仕組みである。各フェーズは15回の授業・演習で構成され、科目間に十分なインターバルを設け、学生が他科目や演習を通じて修得した知識・技能を持ち込み、深化させる授業設計になっている。



PBL入門（1年次：学修基盤科目）2単位（15回授業）／演習

目的：問題解決能力、チームワーク、批判的思考、コミュニケーション力を養成
 学びの焦点：オンラインディスカッションとプロジェクトを通じた協働作業（PBL科目群の基礎）
 成果物：プレゼンテーション資料、プロジェクトを踏まえた個人レポート

DXプロジェクトⅠ（2年次：入門科目）2単位（15回授業）／演習

目的：PBLの型に慣れる、オープンデータ活用の初歩を体験
 データ源：県・市オープンデータ、観光庁、SNS公開データ等
 学びの焦点：課題定義、データ収集・前処理、可視化
 成果物：ダッシュボード草案、ピッチ動画、データ辞書v0.1

DXプロジェクトⅡ（3年次：応用科目）2単位（15回授業）／演習

目的：現実データの荒さに対応し、品質評価や設計力を強化
 データ源：オープンデータ+企業提供サンプル（匿名化済み）
 学びの焦点：データ品質評価、スキーマ整備、プロトタイプβの設計・検証
 成果物：プロトタイプβ、Data Readiness Report v1.0、デモ動画

DXプロジェクトⅢ（4年次：実践科目）2単位（15回授業）／演習

目的：実務水準のデータ衛生スキルを獲得し、研究・論文へ接続可能
 データ源：企業活動における実データ（オンライン授業では分析せず、クレンジングとメタデータ化に限定）
 学びの焦点：匿名化、品質KPI測定、再現性のあるデータパイプライン設計
 成果物：クリーニングスクリプト、データ辞書v2.0、リスク評価書、Data Readiness Report v2.0

共通基盤

学修目標（KSA）：知識（データ理解）、技能（処理・可視化・試作）、態度（倫理・説明責任）
 教育支援体制：基幹教員、RAC、RA/TA、外部連携企業によるPBL設計支援
 ツール活用：LMS、GitHub、Google Colab、BIツール、Figma、Miroなど

DXロボティクスのイメージ群

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
 改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
 設置等組織名：建築デザイン学部建築デザイン学科
 入学定員：【R6新設】100名
 所在地：東京都文京区

学部キャッチフレーズ
 「建築でかなえられることのすべてを。」



【入学者選抜・確保】
 多面的・総合的な評価・判定の実現や多様な学生確保のため、一般選抜英語外部試験利用型、大学入学共通テスト利用型、総合型、外国人留学生特別入試等、**本学部アドミッションポリシーに対応した様々な選抜を実施** → 女子総合大学として、**多様性の実現、高等教育を受ける機会の確保など、特徴的な取組も含め、女子大学の役割**を担う

【特定成長分野の人材育成戦略、管理・教育体制・教育研究環境整備】
 建築環境・設備演習等の科目を通じた**建築の環境・脱炭素分野で活躍する女性技術者や研究者の育成**、また**DXに対応できる人材育成**に向け、かかる教育環境整備による設計演習科目の充実

【実務経験のある教員による授業】
 学部基幹科目「建築設計スタジオⅠ～Ⅴ」をはじめとした講義・演習科目において、**1年次～4年次まで常に実務家教員による指導を受ける機会**を提供

【他機関連携を通じた教育の実施】
 基礎となる住居学科から、専門科目「建築と社会」におけるNPOとのPBLやUR都市機構の関連会社である日本総合住生活株式会社との寄附授業協定等により、様々な科目で企業等との協力・連携を推進 → **建築デザイン学部におけるさらなる教育内容の深化**

学部コンセプト
 人文、理工、芸術を融合した総合学問として
 「住まう」人の為の「建築デザイン」を学ぶ

【学生確保の見通し・社会における人材ニーズ】
 社会ニーズ：理工系分野の女子学生増／
 文理融合型人材育成
 受容性調査：建築学・私学・建築デザイン学部志望者／
 (R4実施) 建築デザイン学部採用意向企業

女子総合大学である日本女子大学が設置する
建築デザイン学部のニーズは高い

【企業等との設置構想に関する事前協議】
 学部新設にあたり、基礎となる学科である**住居学科卒業生同窓会や連携企業との意見交換内容**を学科会議で共有

建築デザイン学部カリキュラム策定に活用

【外部資金の獲得取組】
 研究費：重点的研究支援、若手研究者支援 等
 寄附金：卒業生団体との連携、データベース構築 等

着実な外部資金獲得強化



住居から都市空間までの広範な建築専門分野の理解とそれらを統合するデザイン教育

2025 (令和7) 年度 事業実施内容

2024 (令和6) 年度【学部設置1年目】 建築デザイン学部建築デザイン学科設置 入学者 97名
 2025 (令和7) 年度【学部設置2年目】 入学者111名

入学者選抜
—APの実質化/多様な人材確保に向けた取組の強化—

【総合的な素養を有する学生の確保 (総合型選抜)】
 ●アドミッションポリシー (AP) のさらなる実質化のため、総合型選抜において、学力のみならず、芸術面 (作画・画力) 等さらに多面的に評価できるよう、第一次選考の基準等を工夫。

【より多様な人材の確保 (公募制学校推薦型選抜導入)】
 ●多様な人材を確保するため、2026年度入試から新規導入。

国際交流・海外大学連携
—海外連携校の着実な拡大と交換留学実施—

- 建築デザイン学部を中心とした協定として、新たに「ホーチミン市建築大学」と協定を締結し、**協定校を着実に増加**。
- 2025年度は建築デザイン学部において6名の交換留学生を受け入れ本学理工学学部における**グローバル化をけん引**。
 《台湾》逢甲大学(3名) / 淡江大学(1名)
 《韓国》梨花女子大学(1名) / 誠信女子大学(1名)
 ※接続する建築デザイン研究科では《イタリア》ミラノ工科大(受入2名、派遣1名)、《ベルギー》ブリュッセル自由大(派遣2名)の実績あり

企業等連携／実務者教育

—英語で学ぶ寄附講座、PBL科目、実践的科目・プログラムの拡充／国際的に活躍する特別招聘教員—

- 2024年度設置の寄附講座(英語による講義)を、海外短期研修や留学導入科目として、引き続き建築デザイン学部主体で運用。「持続可能な社会と建築デザイン」(一財)日本建築センター / 「Self-Building Public」(株)隈研吾建築都市設計事務所
- 新たに「武蔵コーポレーション(株)」と協定を締結。2026年度から、土地・建築の有効活用、建物保全や経営・会計・マーケティングを学ぶ、実践的な授業(「企業マネジメント入門」「建築ストックマネジメント(仮)」)展開に加え、既存物件のリノベーション・コンペなど**実践的な課題に学生が取り組む課外プロジェクトも企画**予定。さらに、(一財)日本建築センター主催の海外インターンシップへ本学部学生が多数参加するなど、**企業連携を基にした国際的・実践的な学修プログラムの拡充**につなげている。
- 建築デザイン学部と食科学部の連携イベント『千人茶会』において、「千人茶会 茶室アイデアコンペティション」と銘打ち、本学部学生が製作し、本学部特別招聘教員である隈研吾教授による審査で選出された上位4作品の展示企画等、**多くの実務者教員を有する学部である特色を活かしたプログラムを多く実施し、実社会との接続を意識した教育を実施**。

基本情報					
改組予定年度	令和8年度	設置等組織名	理工学部グリーンテクノロジー学科	入学定員増数(合計数)	60名
所在地	東京都八王子市	改組内容	既存学部における学科の新設(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わない)	入学定員減数(合計数)	60名

社会的ニーズとグリーンテクノロジー学科設立の意義

2050年にかけて、持続可能且つ世界の二酸化炭素排出量を大幅に削減する広範囲のエネルギー・トランスフォーメーション(Ex)が加速する。二酸化炭素を回収・利用・除去する様々なカーボンニュートラル事業が展開され、新規のエネルギー生産技術や生物生産プロセスの社会実装化が必要となる。

政府が進めるグリーン・トランスフォーメーション(GX)において、農業・水産といった生物生産プロセスの自動化や水処理・廃棄物処理における省エネ・創エネ技術を扱える技術者の養成が急務であり、これらの分野を教育・研究する「グリーンテクノロジー学科」を開設する。

学びの3分野と人材育成



グリーンテクノロジー学科の教育・カリキュラム編成

- ①世界に開かれた国際性豊かな学科として、イングリッシュ・トラックを導入し、海外連携科目を開講。
- ②省エネルギー・創エネルギー技術の社会実装化を目指すための文理協働教育を実施。
- ③カーボンニュートラル事業や新たな炭素管理産業を牽引する人材を育成する社会連携科目を設置。

<学びの3分野> 「低炭素技術」、「生物生産・食品」、「国際協力・経済経営・アントレプレナー」

【低炭素技術】 水処理工学実験、生態環境工学、廃棄物処理科学、地球科学などの科目	【生物生産・食品】 農場実習、植物工場実験、プランクトン工学実験、土壌学、センシング技術、食品工学などの科目	【国際協力・経済経営】 環境経営学、サプライチェーン、ベンチャービジネス論、情報処理などの科目
--	--	---

連携

学内: 理工学部共生創造理工学科/情報システム工学科・プランクトン工学研究所 海外: バジャドリッド大学(スペイン)・マレーシアポラ大学・トレンガヌ大学(マレーシア)・スラバヤ工科大学(インドネシア)・グアナフアト大学(メキシコ)	学内: 国際教養学部・経済学部・経営学部 海外: マラヤ大学(マレーシア)
--	--

- ・海外連携科目: イングリッシュ・コミュニケーション、海外招聘教員科目、海外インターンシップなど
- ・社会連携科目: 企業経営論、知的財産、企業インターンシップなど

グリーンテクノロジーの教育と研究を通じ、カーボンニュートラルな社会の構築と持続可能なサーキュラーエコノミーの実現に寄与し、SDGs達成に貢献する人材を育成する。

・多様な入試制度(総合選抜入試、指定校推薦入試、連携高校推薦入試、一般入試などの導入) ・イングリッシュ・トラックの導入により、海外からの留学生の積極的な受け入れ	多様な入学者の確保	外部資金の獲得	・学内研究支援部局とURAによる外部資金調達フレームの強化 ・企業・自治体とのカーボンニュートラル事業の立案・委託の強化 ・知的財産の技術移転と社会実装化事業の促進
--	-----------	---------	--

令和6・7年度の本学および本学科の主な取り組み

➤ IT園場

➤ 屋外型微細藻類リアクター

➤ 植物工場実験室

➤ バイオリソースセンター

➤ 教員研究室・実験室補改修

➤ 教職員のメキシコ、ブラジル、タイ、インド、中国、韓国、マレーシア、ネパール、インドネシアの大学・高校訪問、直接リクルート

➤ 各国の留学フェア参加

海外交流・リクルート

入試制度拡張

➤ 「女子特別選抜」導入

➤ 「基礎学力方式」1科目選択科目に「国語」追加(文系出身者も受験可)

➤ 海外指定校追加

➤ 2025年度文科省「国費外国人留学生特別プログラム(特別枠)」採択

教育施設設備整備

新学科設置

R7年5月1日 届出提出

R7年6月25日 設置受理

R8年4月2日 新学科生入学

定員60名

理工学部
グリーンテクノロジー学科

グリーンテクノロジー学科
「地球の未来を取り戻せ!」

<基本情報>

改組予定年度：令和7年度

改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）

【工学部】

設置等組織名：

- 電子情報工学科** 入学定員：【R7新設】110名
半導体技術を基本とした電子デバイスや回路などの電子技術と医用生体計測分野への応用に関する技術を持った人材の養成
- 電気システム工学科** 入学定員：【R7新設】110名
従来の電力システムに加えグリーンエネルギーを支える人材の養成
- 機械情報工学科** 入学定員：【R7新設】120名
Society5.0で実現する社会を支えるロボットやモビリティシステム、新素材に関する人材の養成

【情報学部】

設置等組織名：

- 情報システム学科** 入学定員：【R7新設】80名
現代社会の情報インフラである情報システムを支える人材の養成
- 情報マネジメント学科** 入学定員：【R7新設】80名
データサイエンスを学び、それらを社会へ応用する人材の養成

【環境学部】

設置等組織名：

- 地球環境工学科** 入学定員：【R7新設】100名
地球及び宇宙から得られる情報を活用し、地球環境を維持する人材の養成
- 食健康科学科** 入学定員：【R7新設】90名
食や健康に関する諸課題の解決に取組む人材の養成

所在地：広島県広島市



✓専門的なものづくり技術と先進的なデジタル技術を融合させた学びにより、産業界をリードする新しいものづくり人材の育成

✓高度なデジタル技術に加え、データ思考やシステム化技術の学びにより、社会に変革をもたらすデジタル人材の育成

✓デジタル技術を活用することで、豊かな生活を追求するための技術や知識の学びにより、これからの持続可能な社会を創造するグリーン人材の育成

・改組後の教育内容

- ✓成長分野をけん引し、分野横断型の思考ができる未来を創造する人材の育成
- ✓それぞれの分野を横断した学びの機会を提供し、幅広い知識を身に付ける学び
- ✓既存の専門的な知識や技術を社会の諸課題の解決に応用する力を身に付ける学び
- ✓アントレプレナーシップの醸成により、未来を創造する力を身に付ける学び
- ✓グローバルマインドの醸成により、世界で競争できる力を身に付ける学び

✓本取組の特筆すべき点<その1>

- ・地域産業界や行政機関などの学外有識者で構成する外部評価委員会による教育内容及び入学者選抜の評価等によるPDCAの実施
- P：学外有識者（地域の産業界や行政機関等）で構成する外部評価委員会との意見交換の実施及び社会や企業等からのニーズの調査
- D：ニーズに基づく教育・入学者選抜の実施
- C：内部質保証推進委員会が外部評価委員会と連携し、養成人材の社会ニーズに基づく教育内容・入学者選抜となっているかを評価・検証
- A：検証結果の教育内容等へのフィードバック

✓本取組の特筆すべき点<その2>

- ・小学生から高校生までを対象として初等中等教育段階との連携を幅広く実施
- ・シンポジウム開催による高校生、保護者や地域社会への成長分野の理解促進

申請要件に係る具体的内容

- ・中国四国地方において志願者の安定的確保を継続
- ・イベント型広報、訪問型広報や媒体型広報の実施
- ・新設学科設置に係る検討特別委員会における学修目標の具体化、教育カリキュラムの編成及び入学者選抜の方針等についての議論の実施
- ・新設7学科による特定成長分野における理工系人材の育成の実施
- ・実務経験のある教員等による授業科目の時間数を2割以上配置
- ・外部講師（地元企業の技術者）による社会課題と結びつけた学びの提供
- ・地元企業、団体、自治体との包括的連携協定による人材育成等に関する連携の推進
- ・旧来の工学系分野の専門技術者のみならず、その分野におけるデジタル化や分野を横断して思考できる未来を創造する理工系人材のニーズに対応するための7学科の新設
- ・本学と地元企業等で構成する広島工業大学地域連携技術研究協会の加盟企業からの意見聴取及び外部資金獲得
- ・大学連携コンソーシアムや放送大学等との単位互換制度の実施
- ・多様な入学者の確保に向けた入学者選抜の実施
- ・学生に対するきめ細やかな学習支援や経済的支援の実施

令和7年度

新学科開設

●R7 4月新学科開設
DX・GX人材を育成する7つの新学科を設置

2025年、広島工業大学は生まれ変わります
変化の激しい社会の中で、一つの専門分野を極めるだけでは新しい解決策を創出していくことは難しい。
広島工業大学では、全ての学部学科の刷新を促進するとともに、ポストレスナ学科の構築をとおして、未来の先をつくる力を育てます。



新たな教育で“未来創造力”育成

●HIT.E-ACTION
DX・GXなど、ビジネスや社会の変革に不可欠な革新的な技術の学びや新しいことに挑戦できる機会を充実
“未来創造力”を有する人材を育成する新教育プログラムを実施

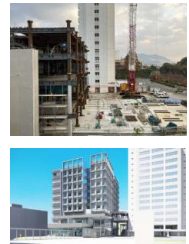
- ・分野横断探究教育
知識・技術をつなぐ、多様な考え方を養う
- ・アントレプレナーシップ教育
新たな可能性を見出し、行動する力を身につける
- ・グローバル教育
世界規模で考え、地域に根ざして行動する

デジタルものづくり強化とすそ野の拡大

- 多彩なデジタル工作機械を備えた「FabLab」を設置
DX・GX人材育成教育に必要な機器を設置
- 正課・課外活動の活用
授業利用に加え、学生個人の自主創作やゼミ・サークル活動で利用
- 地域・社会への展開
地域住民を対象とした一般利用の試行実施
- 高校生や教育関係者による見学
- 小学生を含む初等中等教育段階との連携

新棟着工

●R6 2月新棟着工
R9 3月竣工予定



●デジタルものづくりを行う
Hiroshima Making HubのFabLabを1階に移設・整備

●学部内の縦と学部間横のつながりを意識した設計

学びの情報発信

●新設学科の学びを高校生や地域に紹介する公開シンポジウムの実施
【R7は電気システム工学科（GX）】



<基本情報>

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名：情報科学部情報科学科
入学定員：【R7新設】100名
所在地：北海道札幌市

北海道科学大学 入学定員
情報科学部 情報科学科 100名
https://www.hus.ac.jp/information-science/

設置の理念

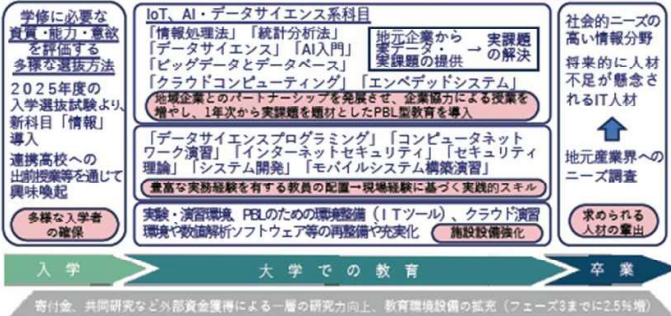


養成する人材像

コミュニケーション力、課題発見解決力、自らを律し学び続ける力、多様な視点から物事を捉え異なる意見を理解する力といった基盤能力とSociety5.0時代に求められる情報科学の技術と知識を有し、社会の課題発見解決と持続的な社会実現に寄与できるデジタル人材を養成

カリキュラムなど

実践力を養う



情報科学部 4つの特色

情報技術の基礎・基礎から AI・IoT・ビッグデータ・クラウドなどの最先端技術までを体系的に学べるカリキュラム
最新教材や最先端技術が導入され、実践を通して知識や技術を修得できる課題解決型授業
どの分野の人材にも必要な基盤能力を育成する全学共通プログラム「HUSスタンダード」や総合大学の特色を生かした学部横断的の学びや研究
多様なバックグラウンドを持ち、先達の研究分野をカバーする教員陣により提供される、理論と技術の両方を身に付けられる教育研究環境

情報科学部で学べる分野

AI・データサイエンス分野
機械学習 最適化 知識処理 知識処理
情報システム分野
SNS Webアプリ クラウド
セキュリティ システム開発 スマートアプリ IoT
マルチメディア情報処理分野
音声処理 画像処理 映像処理 仮想現実
専門基礎
数学 データ処理 プログラミング PC/タブレット データベース コンピュータネットワーク
想定される卒業後の進路・職業
想定される進路
・大学院進学
・情報システムの設計、開発、構築、運用、保守、管理を行う業務
・情報サービス業
・インターネット付随サービス業
・高等専科（情報、数学）の教員
・通信業
・情報サービス業
・情報処理・提供サービスを行う業務

令和7年度の情報科学部 情報科学科の主な取組

1.情報科学部開設記念シンポジウム開催

テーマ 情報科学が、未来の可能性をひらく

北海道内でDXを活用して地域経済の発展に寄与されている方をゲストに迎え、教育現場の実践や地域との連携を通じて、多様な視点から北海道の未来をひらくヒントを探るシンポジウムを開催



パネルディスカッション登壇者のコメント

- 北海道経済産業局 「北海道の伸びしろはデジタルにあり」
(株)岩谷技研 「解決の鍵がデジタルなら、使わない手はない」
上土幌町役場 「ローカルだからこそデジタルを使い倒す」
本学学長 「デジタルが北海道を救う。その土壌を大学がつくる」

総括

地域と学生を結びつける学びや取り組みを、大学が主導することが期待されている。新しい技術の実現を目指す場としても、北海道には大きな可能性がある。本学情報科学部がその中心を担えるような教育を行う。

2.露出増加による「進学ブランド力」上昇

①方策

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 内容 (Content). Items include 戦略策定, 露出強化, and ターゲット拡大.

②結果

- 1.リクルート進学総研「進学ブランド調査2025」 北海道エリア 志願度ランキング 順位上昇
全体ランキング 6位▶ 3位
女子ランキング 4位▶ 8位
文理別志願度（文系層）33位▶▶▶ 12位
2.志願者数・実質倍率の上昇
志願者数1.1倍（前年比）
実質倍率3.5倍（前年度2.3倍）
定員増に関わらず、選抜性を高く維持
3.平均点上昇 一般系選抜の全区分で平均点上昇



進学ブランド力調査2025



本学情報科学科特設サイト

事業計画名 金沢工業大学における社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成

基本情報			
改組予定年度	令和7年度	設置等組織名	情報デザイン学部（経営情報学科、環境デザイン創成学科）、メディア情報学部（メディア情報学科、心理情報デザイン学科）、情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科）
所在地	石川県野々市市	改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
		入学定員増数（合計数）	620名
		入学定員減数（合計数）	620名

<社会や地域のニーズ・課題>

『第6期 科学技術・イノベーション基本計画』（令和3年3月26日：閣議決定）
 予測不可能な時代においては、**文系や理系という区分を超え、複眼的に物事を捉え、課題解決していくスキル**が重要。
 『我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について』（令和4年5月10日：教育未来創造会議）
 今後特に重要視する人材育成の視点⇒**デジタル、人工知能（AI）、グリーン（脱炭素化など）の科学技術分野や、SDGsをけん引する高度専門人材**の育成。
★当該学部において養成する人材の需要調査結果
 （本学ステークホルダーの企業671社1,019名を対象としたアンケート調査を実施し、906名から回答受領）
【具体的な人材ニーズ】
 ①理工系と文系の区別なく、チームで社会課題解決できる人材が必要となる。
 ②社会の変化に対応できるように、**教育もアジャイル型で進捗する必要がある**。
 ③AIやデータサイエンスを使いこなせる**即戦力人材**が必要となる。

<教育内容・育成する人材像>

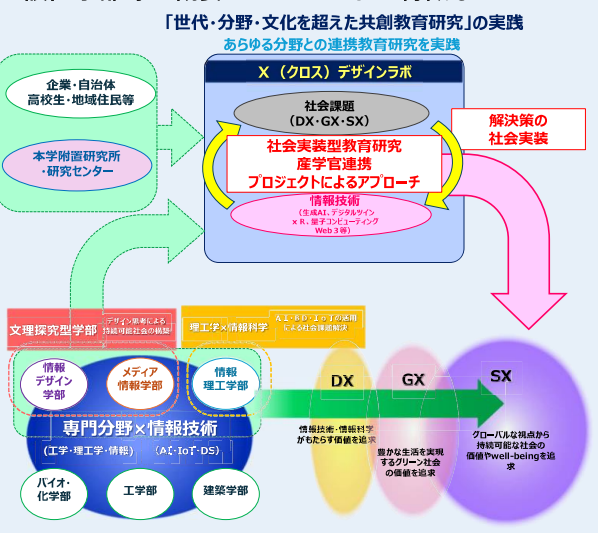
本学のCoreValue（世代・分野・文化を超えた共創教育の構成要素）

情報技術教育
 （数理・データサイエンス・AI教育プログラム：応用基礎レベル認定）
考える力の育成
 （PBL教育、STEAM教育、科学技術者倫理、SDGs教育等〔第1回ジャパンSDGsアワード受賞〕）
国際通用性の確保
 （CDIOイニシアチブ〔PD教育〕、WACE（世界産学連携教育協会）〔KITコア教育〕等）
社会実装型教育研究
 （企業や附置研究所・研究センターと連携したプロジェクト活動等）

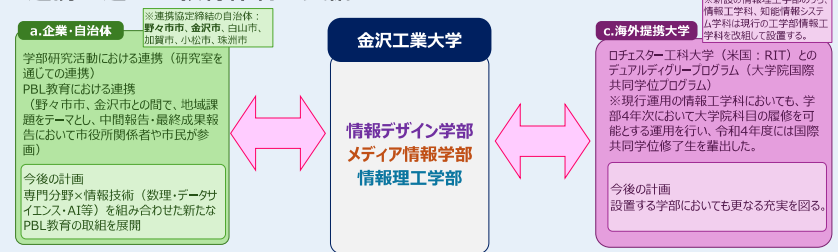
各学部における養成人物像

情報デザイン学部 データサイエンス×デザイン×マネジメントで多様な社会課題に応える人材を育成
メディア情報学部 メディア情報技術×心理情報技術とデザイン・芸術の融合で、社会に新しい価値を創出できる人材を育成
情報理工学部 情報科学×AI×ロボティクスを融合し、幅広い分野でDXを推進できる人材の育成

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>



<連携を通じた教育体制の整備>



<多様な入学者の確保>

- a. 入試科目の見直し**
 文系・理系の併用型入試を実施するため、推薦試験（公募制）において数学、英語、国語の3科目から2科目選択の基礎学力試験を実施。
- b. 女子学生の確保**
 女子奨学金給付型の総合選抜入試を実施 ⇒入学後女子学生のセリア形成支援プログラムを実施する。
- c. 地域の初等中等教育**
 積極的な探究学習の支援や出前授業の実施（PBL教育、教科：情報の支援を含む）
 連携協定校に対するPBL教育とSDGs教育の実施とノウハウ提供
- d. 社会人学生の受入強化**
 社会人学生者制度の運用 ⇒リカレント/カスリノグの実施を図るとともに、履修学生への支援を行う。本学への編入と大学院進学を図る
 情報技術（AI、データサイエンス等）について学生と社会人が共に学ぶプログラム ⇒令和6年度より3年次生を3名が編入
 日本語教育プログラム（KIT-SPJ）による支援
- e. 留学生の受入強化**
 VJIT（ベトナム）との連携協定
 ⇒本学のPBLカリキュラム提供により、本学への編入と大学院進学を図る
 VLNBTI（スリランカ）との単位互換・連携協定
 ⇒令和6年度より3年次生3名が編入
 日本語教育プログラム（KIT-SPJ）による支援

これからの社会で活躍できる人材育成

社会実装型教育研究を主柱に「**世代・分野・文化を超えた共創教育**」を深化させた教育研究プログラムを提供し、教育研究の高度化と社会で求められるイノベーション（DX, GX, SX等）を創造できる人材の育成を加速させる。

- ① **文理の枠を超えた教育研究体制の構築**
 メディア情報学部（文理探究型学部）
 （メディア技術×心理科学×QoL）
 情報デザイン学部（文理探究型学部）
 （マネジメント×データサイエンス×地域）
- ② **情報技術の高度化を図る教育研究体制の構築**
 情報理工学部（理工学×情報科学）
 （情報工学×知能情報×ロボティクス）
- ③ **特色あるプロジェクト教育研究の高度化**
 ⇒専門分野に情報技術を取り入れ、**あらゆる分野との連携教育研究を実施**

X（クロス）デザインラボの設置（令和9年3月完成予定）



連携を通じた教育体制の整備と実施

- 企業や自治体と連携した科目の整備・実施**
 「プロジェクトデザインⅡ」において、野々市市および金沢市の地域課題に対して、情報技術を活用したデータ分析チームでの協働による実践的なPBLを実施
- 関連分野に強みを持つ海外大学との連携**
 情報理工学部では、海外連携校であるロチェスター工科大学（米国）との交換留学およびデュアルディグリープログラムを推進
 授業科目の英語化に向けたオンデマンド対応の段階的な整備を推進

多様な入学者の確保に向けた取組

- 入学者選抜における科目の見直し**
 令和7年度入試試験（推薦試験A（公募制）および一般試験A）では、文系・理系を問わず多様な人材を確保するため、「数学・英語・国語の3科目から2科目を選択する基礎学力試験」による入試を実施
- 女子学生の確保に向けた取組**
 女子学生を対象とした給付型奨学金を支給する「総合選抜（女子奨学生）」を実施
 女子学生を対象としたキャリア支援プログラムを実施
- 地域の初等中等教育段階の学校との連携**
 令和6年度には延べ67件（小学校：1校、中学校：10校、高校：38校）の出張講義を実施
 DX/ハイスクールの採択支援として「DX/ハイスクール応援プログラム」を開催し、高大連携事例紹介やセミナー・ワークショップを実施
 高校との連携協定の締結（令和6年度：新規7件）
- 社会人学生の受入強化に向けた取組**
 学生と社会人が共に学ぶ「社会人学生者」として、18社から39名の社会人が正課授業に参画
 リカレント/カスリノグ教育として、AI等の情報技術を学ぶ「情報技術教育プログラム」を開講し、令和6年度は42名の社会人が受講
- 留学生の受入強化に向けた取組**
 ベトナムの暹王工科大学（VJIT）において、PD Innovationに係る合同研修を実施
 スリランカ日本情報科学短期大学（LNBTI）との連携に基づき、編入生3名の受入を実施



事業計画名 大和大学 理工学部・情報学部 収容定員増加計画

基本情報					
改組予定年度	令和7年度	設置等組織名	理工学部・情報学部	入学定員増数(合計数)	115
所在地	大阪府吹田市	改組内容	既存学部の収容定員の増加	入学定員減数(合計数)	0

<社会や地域のニーズ・課題>
 ○「理工系人材育成戦略」
 我が国は、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組んでいく必要がある。
 ○「第6期科学技術・イノベーション基本計画」
 俯瞰的な視野で物事を捉える必要があり、自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた『総合知』を活用できる仕組みを構築しなければならない。

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>
 ○理工学部・情報学部の収容定員の増加とともに、理工学部の専攻組織を改編し、生物生命科学専攻を新設、情報学部への情報の学びの一本化を図る計画である。

<教育内容・育成する人材像>
 (理工学部)
 数理学専攻、生物生命科学専攻、機械システム工学専攻、電気電子情報工学専攻、建築学専攻の各分野の専門知識、技術とともに、理工の基礎力、幅広い視野を備えた技術者、研究者を養成する。
 (情報学部)
 「情報・データサイエンス分野」「経済・経営分野」の学びを通して、情報学に関する知識、技術とともに、文系、理系の枠組みを超えた知識、視野を備えた人材を養成する。

<連携を通じた教育体制の整備>
 ○理工学部・情報学部とも、企業との連携による実学講座を展開。理工学部では、大学院研究科との共同研究活動を実施。
 ○米国ロサンゼルス市の「西大和学園海外教育センター」を拠点に「海外研修プログラム」を展開。理工学部、情報学部においては、科学技術先進国である米国の世界的企業見学や、現地大学の特別講義等を組み込んだ研修プログラムを実施。

<多様な入学者の確保>
 ○理工学部・情報学部とも、留学生入試を実施。留学生支援組織の設置、カリキュラムへの日本語授業導入、授業料減免制度実施等の留学生支援体制を整備。

理工学部・情報学部 収容定員増計画

理工学部 理工学科	入学定員 230	入学定員 295	
数理学専攻 情報科学専攻 機械工学専攻 電気電子専攻 建築専攻	→	数理学専攻 生物生命科学専攻 機械システム工学専攻 電気電子情報工学専攻 建築学専攻	
情報学部 情報学科	入学定員 200	入学定員 250	

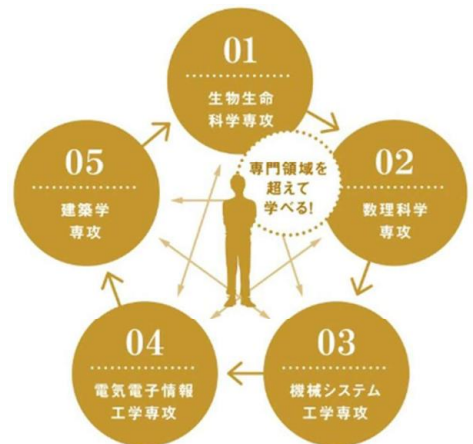
特徴あると考える取組

新しい価値を生み出して世の中に変革を起こす。新時代の即戦力になる

理工学部の特色

独自の5専攻融合型カリキュラムで産業が求める幅広い知識・知恵・技術を修得。情報系の学びも充実

これまでの理工学部では、専門領域以外の学びを深める機会が少ないことが課題でした。しかし、これからの時代、新たな価値を生み出すためには、専門領域の壁を越えた幅広い知識、視野が求められます。そこで、本学ではあえて理工学科1学科の下に「生物生命科学専攻」、「数理学専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子情報工学専攻」、「建築学専攻」の5専攻を置くことで専門領域を融合して学べるようにしています。また、劇的なスピードで進化を続ける高度情報化社会に対応できるよう、すべての専攻で情報系の豊富な知識を身につけることができます。



情報学部の特色

多様なデータを使いこなし、新しい価値を生み出して世の中に変革を起こす。新時代の即戦力になる

- POINT 1 興味、関心、将来の進路に応じて自由に学べるオーダーメイドカリキュラム
- POINT 2 2-2年次に3つの専攻に分かれて専門性を高める (データサイエンス専攻 情報経済経営専攻 情報科学専攻)
- POINT 3 IT技術を徹底的に磨き、すべての学生が、基本情報技術者などの情報系資格を身につける
- POINT 4アントレプレナーシップ(起業家精神)を育てる特別講義を実施
- POINT 5 日本を代表する企業による実学イノベーション講座や第一線の研究者による最先端情報学講座で、IT分野の最新の動向を学ぶ
- POINT 6 就職・国公立大学大学院進学をきめ細やかにサポート
- POINT 7 最先端の学びに応える情報学部棟

